

運営委員会だより

◇ 震災と原発事故からの1年余

高校教育研究所から教育文化フォーラムへと衣替えして3年、5月20日に第3回の総会が開かれました。昨年の3・11以来、当然のことながら、フォーラムの活動も震災・原発関連の取り組みが多く、その比重を占めています。

いわゆる「原発安全神話」は完全に崩壊したかにみえますが、故高木仁三郎さんたちとともに、早くから原発の危険性を訴え続けてきた小出裕章さん（京大原子炉実験所助教）の『騙されたあなたにも責任がある』（幻冬舎）という指摘はコタエます。メディアもまた原子カムラの一角にしっかり組み込まれていた図ははっきりしました。

「真実を見抜く目」が今ほど求められている時代はないのかもしれませんが。

◇ なぜ大急ぎで「再稼働」なのでしょう。

福島第一原発事故の収束も見えず、事故原因や責任の究明も不十分なまま、政府は関電大飯原発の再稼働に踏み切りました。「安全・安心・安定・安価」の看板がはがれ落ちたのに、ひたすら夏の電力不足と財界（企業）の要望をたてにの再稼働です。折も折、6月20日に成立した原子力規制委員会設置法の「付則」で、原子力基本法の第2条基本方針を一部改正し「我が国の安全保障に資することを目的として」を加えました。自民党の強力な主張によるものだといいます。これこそが本音、脱原発にカジを切れない理由は核武装への可能性を残すため、という気がしてなり

ません。原爆・原発一字の違い、英語で核兵器は nuclear weapon ですが、原子力発電所は nuclear power plant、本来なら核発電所と訳すべきものです。これも「だましのテクニック」の一つでしょう。

◇ つながり求めて

3・11以後、多くの若者たちが被災地に足を運び、ボランティア活動に参加しました。教育のつどいや総会後の特別企画で聞いた「現地へ行って見て、テレビで見ていたのとは全然違うのに驚いた」という声はたいへん示唆に富んでいます。

「バーチャル・リアリティ」という流行り言葉の危うさ。実体験を伴わず、映像を見てわかったつもりでいたことが、実は全然リアルでなかったことを物語っている感想でした。

「フォーラムになってから確かに活動の幅は広がったけれど、高校現場とのつながりが薄れたのではないか」という心配は常に意識しているところです。運営委員でも非常勤講師としてわずかに高校の教室にかかわっているメンバーは少数です。フォーラムとして今なすべきことは何なのか。「男女共学・ジェンダー部会」とならんで、とりわけ「平和・人権部会」の活動再開が求められているのではないかと。そこではぜひとも現役の人たちとのつながりが必要、という考えで運営委員会の意見は一致しています。もちろん教職にある人以外にも、多くのメンバーが参加してほしいと考えています。

(内藤 真治)

今後の主な予定

- | | |
|-----------------|---|
| 7月27日（金）13時～ | 教育ネットワークぐんま（フォーラム） |
| 7月28日（土）14時～ | 近現代史ゼミ「政治とカネ①」前橋市総合福祉会館第5会議室 |
| 7月29日（日）10時30分～ | 平和・人権部会（フォーラム） |
| 9月7日（金）13時～ | スタジイ楽書会（フォーラム） |
| 9月8日（土）13時30分～ | 子どもとメディア研究部会（フォーラム） |
| 9月29日（土）8時30分～ | 『近現代史ゼミ』フィールドワーク（「歴教協」と共催）
前橋駅南口集合 《名胡桃城・沼田城・白井城》 |
| 10月6日（土）午後 | 男女共学・ジェンダー部会学習会 男女共同参画センター研修室
（「ぐんま公立高校男女共学を実現する会」と共催） |

育ちと学び No. 13 発行：ぐんま教育文化フォーラム

〒371-0026

前橋市大手町3-1-10 教育会館3F

(TEL・FAX)

027-235-8876

(IP電話) 050-3419-3803

(E-mail) g-kyoken@nifty.com

(HP) <http://homepage2.nifty.com/g-kyoken>